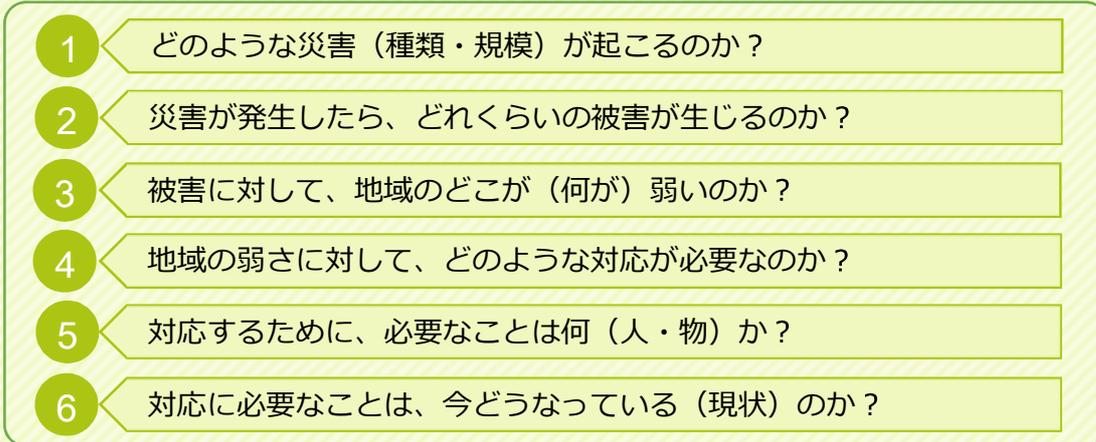


2 平常時の活動の考え方

- 活動の内容は、地域の災害リスクを踏まえることが大切です。
- 地域の災害リスクを知り、それに対する対策を考え、防災訓練、防災知識の普及・啓発、防災マップの作成などの活動に取り組みます。

活動の考え方



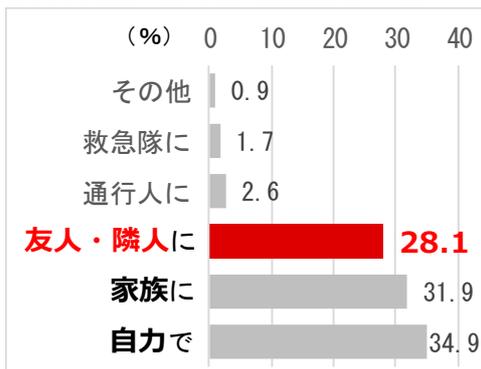
地域の災害リスクを踏まえた上で、地域の弱点に対して必要な対策を考えて、平常時の活動を実施



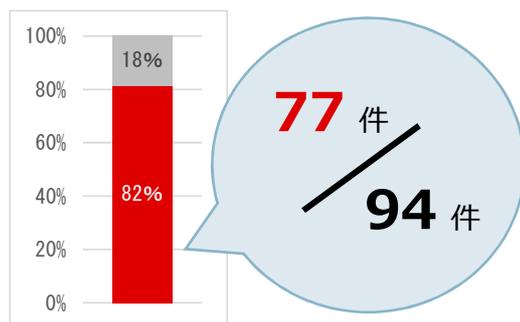
共助の力～阪神・淡路大震災の教訓

- 大都市での地震災害である阪神・淡路大震災では、倒壊家屋からの救助活動や消火活動で地域の共助の力が発揮されました。

阪神・淡路大震災における倒壊家屋からの救助活動の主体



阪神・淡路大震災において「地域」が行った消火活動



参考：内閣府「地域防災リーダー入門テキスト」

3 地域の災害リスクを知る

品川区防災地図をチェック

- 区では、「品川区防災地図」を配布しています。
- 防災地図には、地震が起きた場合の地域危険度として、「総合危険度」「災害時活動困難度」「火災危険度」「建物倒壊危険度」を町丁目ごとに示しています。
- 自分達の地域の危険度を把握しましょう。

品川区の地域危険度は P.85 へ 



品川区防災地図

まちあるきによる点検

- 危険度が低い町丁目が「安心」というわけではありません。
- 地震が起きると倒れそうなブロック塀などありませんか。
- 実際に「まちあるき」をして、地域の災害リスクを把握しましょう。

まちあるきの訓練は P.20 へ 



防災マップの作成

- 防災マップの作成は、地域の状況が見える化し、災害時の状況を具体的にイメージすることができるため、地域における対策を考える上で効果的です。
- 一時集合場所や区民避難所だけでなく消火器や倉庫などの防災設備、地域内の危険箇所などを掲載することで、地域の状況が一目でわかるようになります。
- 作成したマップは訓練での活用以外にも、住民の方へ配布することであらためて防災意識を持ってもらうきっかけにもなります。

防災マップ作成は P.23 へ 



町会独自で防災マップを作成 出石町会

【防災マップ作成の経緯】

- 東日本大震災を契機に防災意識が高まる
- 地域危険度測定調査によると、火災危険度が高いことが判明
- 自分達の町を防災目線で歩き、防災資源と危険箇所をまとめた防災マップを作成
- 防災マップを活用し、車いすやリヤカーでの避難訓練も実施



風水害に備える

- 近年、強い台風の襲来、集中豪雨・土砂災害の発生など、大規模な災害が頻発・激甚化しています。
- 風水害は地震と異なり、台風や大雨などの接近が事前にわかります。そのため、事前の避難行動や備えが重要になります。
- 品川区の浸水ハザードマップを見て、自分の地域の浸水リスクを確認し、自分の避難行動の基準 **マイ・タイムライン**作成は P.24 へ 成しましょう。
- ハザードマップは、品川区防災地図や、区のホームページで確認できま

